

ラグビーが「上流階級のスポーツ」と見なされる理由

元々は1つの競技だったサッカーとラグビー

2019.10.23 (水) Takeo Goto ▶

スポーツ

1 2 3 4

厳しい階級社会の中のサッカーとラグビー

最初にFAやRFUを結成したのは、パブリックスクールや大学を卒業したエリート階級の青年たちだった。彼らには余暇の時間がたっぷりあったから、純粋な趣味としてフットボールをプレーしていた。

だが、19世紀後半になると労働生産性が向上したため、日曜日以外に土曜日の午後も工場が休日となる。そのため工場労働者の間でもフットボールが盛んになっていったのだ。

とはいえ、上流階級と比べれば余暇の時間はごくわずかで、練習や試合のために工場を欠勤すると給料がもらえず、所得が減ってしまう。そこで、チームを強化するため、クラブは優秀な選手を金銭的に援助するようになり、ついにはクラブから給料を受け取るプロ選手が誕生する。

英国は厳しい階級社会だった。そのため、上流階級の人たちは労働者階級出身の選手と一緒にプレーすることを嫌い、FAもRFUもプロクラブの加盟を認めようとしなかった。だが、その後、サッカーの統括団体であるFAはプロの存在を公認するようになる。一方、ラグビーの統括団体RFUは最後まで労働者階級のプロクラブを認めなかった。そのため、次第に「サッカーは労働者のスポーツ、ラグビーは上流階級のスポーツ」と見なされるようになっていったのだ。

「ラグビーは紳士が行う野蛮なスポーツ、サッカーは野蛮人が行う紳士のスポーツ」などと言われるのには、こんな理由があったのである。